

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子巣鴨駅前保育園
施設所在地	東京都豊島区巣鴨1-14-8中野ビル2.3階
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

つくる

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

前年度から栽培を楽しむ姿がある。特に今年度は収穫したものからどのようにして食べるのか「△△にして食べたい」と考える姿が見られた。子どもの姿をもとに必要な物品を用意し、活動を行った。野菜の栽培から食べることにより、食の大切さ楽しさを学び自然との触れ合いを図る。

2. 活動スケジュール

○トマトの栽培と収穫

・栽培は毎年恒例となっており、子ども会議を行い、何を栽培し、食べたいのかクラスで決めた。

4月事前にトマトの栽培についてどの手順で行うのか調べる

トマトの苗を購入、トマトの苗植え、水やり

5月トマトの芽かき

7月トマトの収穫、食べる

○食べると消化されて排泄される

「おなかのこびと」の絵本から食べた後の食べ物の行方を知り、運動会の種目（サーキット）で絵本をモチーフに協議を行った。

競技内容も絵本を見ながら「食べ物はどうやって入るのか」「胃の中はどうやって表現をするのか」などを今子どもたちが出来る運動遊びを交えながら考える。

○昨年度から育てていた種イモの栽培とクッキング

2月種イモの栽培を始める

9月前年度に栽培を始めた種イモの収穫

マッシュポテト作り

○かぼちゃの調理と来年度の栽培に向けて

10月事前にかぼちゃの種の乾燥方法を調べる。

かぼちゃのバイ作り、かぼちゃの種を洗って乾燥させ来年度育てる予定

○イチゴの苗植え

10月イチゴの苗植え、水やり

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

栽培…栽培する苗（いちご、トマト）、培養土、プランター、スコップ、じょうろ

保育室の窓からも見えるようにプランターの位置を子ども達の見やすい場所に設定をする。

マッシュポテト、かぼちゃパイの調理する材料や道具の準備

季節の食材や栽培している野菜の写真の掲示

※種芋は昨年度購入したものを利用

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

○トマトの栽培

・今年度は何を栽培するのか話し合いをする。3歳児クラス時から読んでいた絵本にトマトが出てくることを思い出したAが「トマトを作ってみるのはどうか」と提案をする。野菜が苦手な子どもBは最初「違うのがいい」と言うが、周りの子どもたちが「収穫後にケチャップにするのはどうか」とさらにみんなに提案をした。ケチャップなら食べられるかもと思ったBも「それなら作ってみたい」と言い今年度はトマトを栽培することとなった。

・トマトの栽培、収穫、取れたての野菜を観察する。

・トマトは収穫した分が少なかったため、給食時カットしたトマトを食べ素材の味を感じる。赤く熟さなかったトマトも一緒に食べ見た目や味の違いを感じる。赤く熟れたトマトには「甘くておいしいね」「中には黄色い種が見えるね」などトマトの味や触感を楽しむ姿があった。赤く熟さなかったトマトには「赤いやつよりすっぱい」「赤いのは柔らかいけどこっちは固い」などトマトの収穫時期よりの味や触感の違いを感じ友だちや、保育者、保護者に子どもが送迎時に「今日トマト食べたの!」「緑はすっぱくて、赤いと甘いんだよ」などとトマトを食べた感想を伝えたり、「トマトは緑から赤に成長するんだよ」「持ってみるとずっしりするの」とトマトの成長や収穫時の感想を共有をする姿があった。また、栽培前は収穫後はケチャップにしようと考えていたが、今回の収穫後のトマトを見て「今回はみんなでトマトの味を知ってまた今度栽培してみよう」とクラスで話をする姿があった。

・おなかのこびと

トマトの収穫の時期に絵本「おなかのこびと」に関心が広がり食べたものがお腹の中でどんな働きをするか調べ始めた。絵本から身体のイラストをもとにイラストを作成して誰でも見ることのできる図を掲示した。「お腹がいたくなっちゃうかも」「ごはん食べてもいたくならなかった」「こびとさんですげえ」と会話する様子があった。同時期に運動会で何がしたいか話し合う機会があり子どもたちから「こびとさんになりたい」と一人がいうと他の子どもも「なりたい」という意見がでたためどうやら運動会でできるか考えることになった。「おなかのこびとさんはおなかのなかを通過して体の悪いところをなおすんだよ」「お腹の中をと売ればいいと思う」といったことから運動会で披露したい種目を出し合った。運動会用の「おなかのこびと」を考え、また、5歳児の協力を得て取り組んだ。

○3歳児クラスから育てていた種イモを使ったマッシュポテト作り

・栽培時にはフライドポテトを作る予定だったが、話し合いをする前のおやつにマッシュポテトのようなものを食べ、クラスで「おいしい」と好評だった。そのことを覚えていた子どもたちは「ジャガイモでも同じ様に調理ができるんじゃない?」と考え、保育者と絵本や図鑑を使って調べマッシュポテトを作ることになりクッキングをした。

○旬の野菜、かぼちゃを使ったかぼちゃパイ作り

・かぼちゃのパイ作りでは、9月にハロウィンを意識する会話があり、クラス全体でハロウィンを題材にした絵本を読んでハロウィンにちなんだ食材を知った。その後、ハロウィンの時期が一番おいしいという事は、10月の食べ物ではないかと考えたDがいた。Dの発言を聞いたFが「クッキングして食べたい」と言うクラスの子ももちもやりたいと言う。保育者がかぼちゃを使って何にしたいのか聞くと保育室に掲示してある献立を持ってきて、最近食べた中で一番美味しかったメニューをみんなで出し合った。その中で最も多かったパイを子どもたちは中身をかぼちゃにして作ろうと考えた。

・かぼちゃのパイ作りでは、かぼちゃの観察をしてからクッキングを始める。使用したかぼちゃの種は子どもたちと水で洗い、保管をし来年度の春に植えてみる。

・かぼちゃの種については、家で野菜の中にある種を植えると再度食べることが出来ることを知ったCが、かぼちゃのパイを作るとなった時に、「かぼちゃの種を植えるとまた出来るんだって」と呟く。保育者がCの発言に気づき、全体に伝えると、「やってみよう」という声が聞こえた。そこで保育者が給食スタッフにかぼちゃの加熱時間について聞き、かぼちゃの種を再利用できるように準備をした。クッキング当日、温めたかぼちゃを一人ずつスプーンで種をくり抜き、クッキング終了後子どもたちが水道で種を洗い、涼しい所で種の乾燥を始めた。乾燥している間に図鑑やネットを使い、何月頃に種を植えるのか、植えた後はどのように手入れをするのか考え、調べた中で一番上手いきやすいとされている4月に植えることとなった。

○イチゴの栽培と観察

10月イチゴの苗を植える

イチゴの栽培については、3歳児クラスの時に園内に掲示してあったイチゴの栽培についてのドキュメンテーションを見たHがイチゴの栽培をやりたいと提案をしていたが、提案時期が春ごろとイチゴの栽培開始時期が過ぎていたため昨年度は栽培が出来なかった。昨年度の子どもの声をもとに秋ごろに、再度クラスでイチゴの栽培を今年度やってみるか話し合いをする。昨年度から栽培をしたかったHはすぐに「やりたい!」と手を挙げる。他の子ども達も「イチゴ育ててみたい!」と声を上げ、イチゴの栽培することに決まった。苗を植えた後にイチゴの品種が書いてあるイラストを保育室に掲示すると、子どもたちは今育てているイチゴの品種は何なのか、普段食べている品種について興味を持つ。絵本棚に食べ物の絵本があることを思い出したAがイチゴについて調べ始める。周りの子どもたちも絵本や実際に栽培をしているイチゴを見て現在の生育状況を知る。今年は寒波の影響で、なかなか上手く育たないイチゴに疑問を持つ。保育者が現在の天気の様子を伝えると「寒すぎても育たないのか」とイチゴに適した気候を知る。保育者が「もし上手くいかなかったらどうするのか」と聞くと、「イチゴの葉の匂いを嗅いでみたり触って感じてみたい」と答える。中には「どうしたら暖かくなるのか」「水の量を増やしたら元気になるのではないか」「食べられないのは悲しい」「イチゴかわいそう」という声もあった。収穫時期までまだ時間がある為今後も子どもも会議を通じてイチゴについて話し合いを重ねていく予定。

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・ 苗を植える際に子どもと一緒に収穫後どのようにして食べるのか話し合ったことで、収穫を楽しみに栽培物の手入れをしたり、苗から育て始めたトマトがどのように実ができ、食べられている赤いトマトに成長をするのかといった成長過程を見ることが出来た。苗から収穫、クッキングをすることで苦手な野菜を友だちと一緒に「食べてみよう」と考える子どもがいた。

・ 野菜の写真だけでなく、栽培する野菜が使用されている料理も一緒に見せることで、収穫後そのまま食べるのか、クッキングをしてから食べるのか子どもが考えたり、友だちと話し合い、「わたしはそのまま食べてみたい」「ポテトにするのはどうか」といった自分の気持ちを伝える・相手の話を聞いてみる子どもがいた。

・ 苦手な野菜でクッキングしたことで見た目でも苦手だと思っていた子どもが、「自分で作ったからおいしい」と感じ、野菜単体は苦手だが調理次第で食べられると気づく子どもがいた。

・ トマト、種イモの栽培、種イモ、かぼちゃのクッキングを経て保育室に掲示してある季節の食材を見て「〇〇を△△にしてたべたい」「次は□□を育ててみたい」と友だちや保育者に話をする子どもが増えた。

・ トマトの食育活動の後に種イモのマッシュポテト作りを行ったことで、収穫時とクッキングをする時の種イモの観察を細かくする姿があった。種イモは収穫後どのようにして食べるのか話し合い、マッシュポテトを作った。栽培時にはポテトを作る予定だったが、話し合いをする前のおやつにマッシュポテトのようなものを食べ、クラスで「おいしい」と好評だった。そのことを覚えていた子どもたちは「ジャガイモでも同じ様に調理ができるのではないか」と考え、保育者と絵本や図鑑を使って調べマッシュポテトを作ることとなった。

収穫時は皮があり、固かったがクッキングをする時には皮がむけ柔らかくなる種イモに不思議そうにする子どももいた。保育者がクッキングの後になぜ種イモが柔らかくなったのか伝えると「他の野菜はどうなるのか」という視点を持つ子どもがいた。また、クッキング@グ中に固形だった種イモが潰したり調味料を入れて混ぜるとだんだん柔らかくなる工程を子どもたちが1工程ずつ行ったことで「片栗粉ってまとまるんだ」「潰すとほくほくするね」など「どうしてそうなったのか」目で見て体験することが出来た。子どもの考えからクッキングをしたことで、園での活動で終わるのではなく、家庭でも「やりたい」という声が多くあり、クッキングをもとに保護者とのコミュニケーションにもつながった。

・ かぼちゃの種を再利用することになり、子どもたちは他にどんな野菜の種を再利用できるのか疑問を持つ子どもがいた。かぼちゃの種について提案した子どもも他の野菜に興味を持ち図鑑を見ながら「スイカもできそうじゃない?」「ピーマンも出来るんだって」という会話が聞こえたり、「どうもろこしはどこに種があるのか」と普段食べている野菜を思い出しながら疑問を持つ子どもがいた。一人の疑問にクラス全員で図鑑や絵本で調べたり考える子供がおり、最終的に実を乾燥させると再利用できることを知った。

・ イチゴの苗を植えることを知ると、昨年度育てたいと一番言っていたHが表情をぱっと明るくさせ喜ぶ姿があり、保育者に「先生ありがとうございます!」と嬉しそうにしていた。周りの子どもたちもイチゴに興味を持ち、イチゴが書いてある図鑑や絵本を読んだり、イチゴの絵を描くなどイチゴに興味・関心を示すようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・取組前は、栽培したのから保育者が子どもたちに「クッキングをするのはどうか」と提案をしていたが、トマト栽培から子どもたち向けに用意した資料（栽培する野菜やその野菜が使用されている料理）から何にして食べようか子どもたちから引き出すきっかけとなり、種いもの収穫時には「ポテトにしたい」と子どもたちの方から提案をする所までつながったので、より具体的な資料を用意して良かった。ポテトのクッキング以降子どもたちの興味のある食材から次に何を栽培したいのか、クッキングしたいのか伝える子どもが増えてきたので、取組前に比べ食材やクッキングといった食への興味が広がったように感じる。
- ・調味料を実際に見せ、子どもたちと一緒に入れたり混ぜたりしたことで、入れたことでどんな味になるのか完成をワクワクする姿が見られたり、普段食べ慣れている味や好きな好きな味にするにはどんな調味料が必要なのか考える姿にもつながったので、子どもたちの興味が食材だけでなく調味料にも広がったように感じる。
- ・栽培物をそのまま味わうことで素材の味を知ることができ、見た目から苦手意識を持っていた子どもも、「自分で作った」ということで一口でも頑張って食べてみようとする姿が見られたので、子どもたちの野菜への興味・関心につながった。
- ・カボチャの種を再利用出来ると伝えると、かぼちゃの栽培を楽しみにする姿や次に収穫した時にはどうクッキングしようか考える姿があり、一つひとつの栽培やクッキングが子どもたちの中で1つとなり次へ繋げることができた。
- ・10月にクッキングをしたかぼちゃの種を来年度の春に植えていくことで、より食への興味や栽培物への興味を広げていき、食の大切さや楽しさを学んでいけるようにしていきたい。
- ・栽培して食べる事だけでなく、食育活動から食べた後の食べ物の行方について興味を持っていたので、体内について描かれた絵本を提供してみた。すると、体内にも興味を持つようになり、提供した絵本をモチーフにした世界観で運動会の種目をする事になった。運動会で体内に潜む役割の寸劇を取り入れたことにより、食べた後体の中でどうなるのか、最終的には便になる事を知る姿につながったので、子どもの気づきに合わせた絵本の提供や活動をして良かった。また、保育者の考える「つくる」というイメージを子どもたちは「うんつにつながる」というところまで探求を通し新しい気づきにつながったので子どもたちの探求心をより深められるような環境の整備をしていく。
- ・栽培して調理することが好きな子どもたちなので、来年度は栽培物や方法を調べるだけでなく、農家の方や八百屋さんで働いている人の話を聞く時間を設け、より自然に興味を持てるようにしていきたい。
- ・今年度は栽培物にも命があることを知った1年なので来年度は栽培物や植物以外にも命がある事、命を守るためにはどうしたらいいのかを子どもたちと一緒に考えていき、考えたことをテーマに活動に繋げ、広がるようにしていきたい。